

内視鏡センターの現状と今後の課題（新設2年目の報告）

The present state of the endoscopy center and future problem
(It is reported the second year after a new establishment)

内視鏡センター

若林万由美 矢野いづみ 櫻井里美 久保田明美 青木さおり 細野瑞世 野沢美希 斉藤久子

〈要旨〉内視鏡センターは、平成22年内視鏡診療部より移行開設され、スタッフも増員された。受け入れ体制の拡大により、内視鏡検査、治療の件数も増加し、時間を要する治療とともに患者への負担も多く、リスクも高くなってきている。それに伴い看護師の検査、治療に関わる時間、業務内容も増えている。

今後、内視鏡に関する情報発信と共に他部門との連携を深め、新たな内視鏡治療、機器に対応できる専門的な知識、技術の向上が求められている。

キーワード：内視鏡，センター化，検査件数

1 はじめに

内視鏡センターは、先進医療、地域医療への貢献を目的に、平成22年内視鏡診療部より移行、開設された。面積は以前の2倍、内視鏡検査室は3部屋から5部屋、X線検査室を1部屋増設、手術室、日帰りカテリカバリー室も新設され、看護師及びスタッフ6名から13名に増員となった。内視鏡医療の進歩は目ざましく、看護師、内視鏡技師には専門性の高い知識技術が求められ、日々努力、研鑽を積んでいる。内視鏡診療部から内視鏡センターへの移行前後の実績を報告し、今後の課題について考察する

2 方法

(1) センター化前後の業務実績について比較

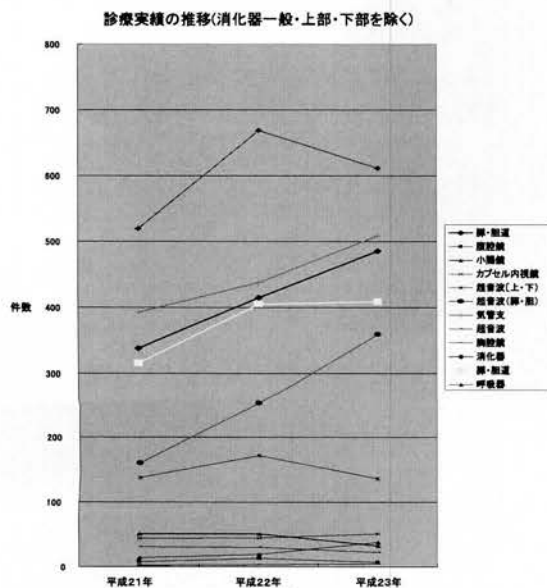


図1

年度別総件数、検査項目別件数、治療件数、年度別時間外件数、手術室、日帰りカテ件数

(2) 看護師1人が1日検査治療介助に関わる総時間を比較（検査15分/件 治療180分/件 膵胆道系及びEUS60分/件とし総時間を算出）

3 結果（平成21年度内視鏡診療部と比較）

- ①年度別総件数：（内視鏡検査治療）22年度18%増加 23年度22%増加（図1）
- ②膵・胆道系検査：22年度22%増加 23年度43%増加 膵胆道系の超音波検査22年度58%増加 23年度124%増加（図2）
- ③治療件数：22年度28%増加 23年度25%増加
- ④年度別時間外件数：22年度43%増加 23年度33%

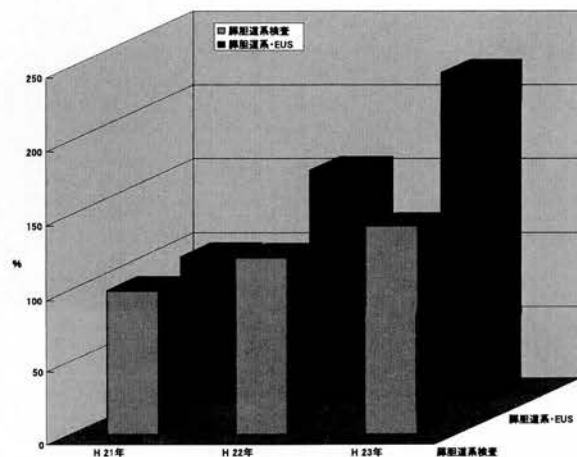


図2 膵・胆道系検査

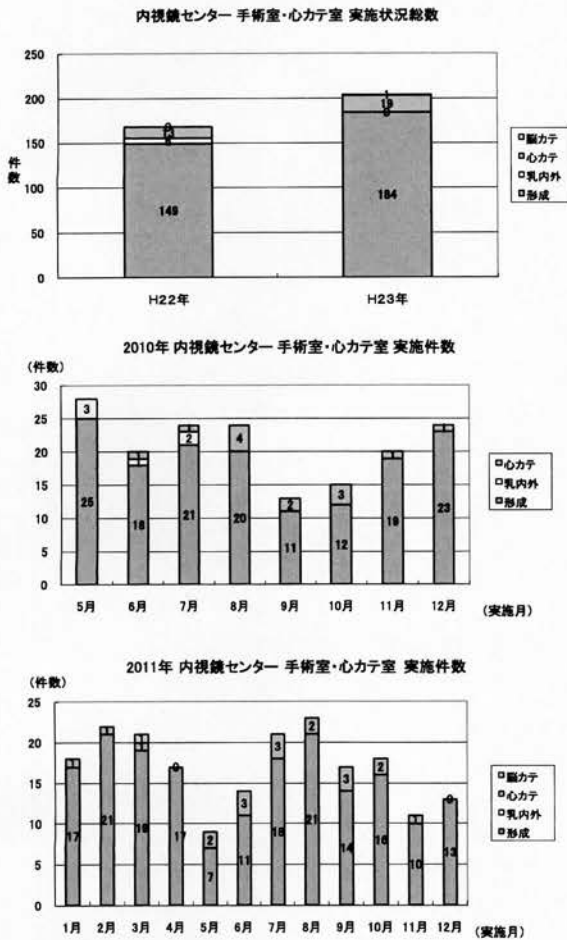


図3

増加

- ⑤手術室，日帰りカテの件数：1年目168件，2年目191件（但し22年度は5月～12月）（図3）
- ⑥看護師が検査治療介助に関わる時間（図4）
検査：22年度14%増加 23年度18%増加，治療：22年度28%増加 23年度25%増加，膵胆道系検査及びEUS：22年度33%増加 23年度55%増加

4 考察

センター化により受け入れ体制が拡大され内視鏡検査・治療の総件数が増加し，なかでもESDなどの治療，膵胆道系の検査，超音波内視鏡検査などが特に増えてきている。より確実な診断を行う目的で，2種類の検査を同時に行うケースもあり，時間を要する治療とともに患者への負担も多く，リスクも高くなってきているそれに伴い看護師の検査・治療に関わる時間も多く業務内容も増えている。看護師は，内視鏡検査・治療がより安全で安楽に受けられるように，注意深い観察と適格な判断力，集中力が必要となってくる。また，新たな内視鏡治療，内視鏡機器に対応できる専門的知識・技術の向上が求められていると共に，手術室，日

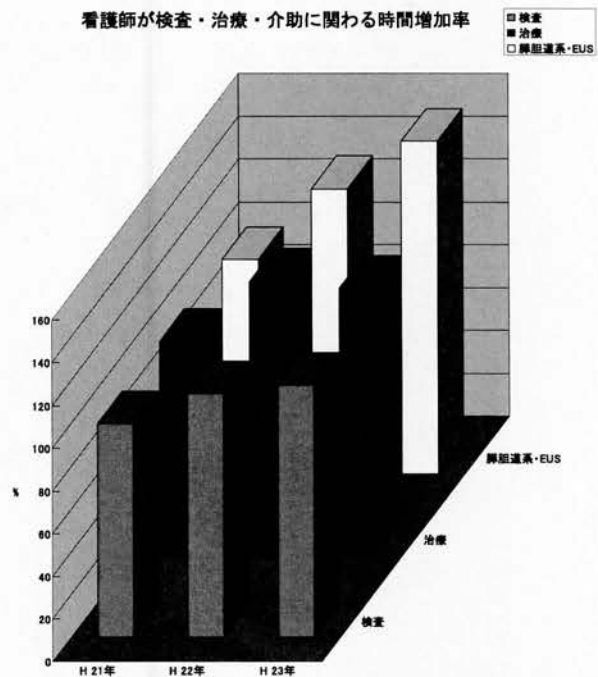


図4

帰りカテリカバリー室に関する新しい業務への対応と，知識が必要とされる。時間外件数の増加については，夜間，休日の患者対応は医師のみとなり，今後看護師の時間外対応が課題となる。センターへの，入院外来患者や，付添家人の出入りも増え，患者のみでなく家人への対応も必要とされる。検査治療の増加に伴い同時間帯に診療科の違う様々な検査が行われている。検査時に留まらずセンター内でのプライバシーを配慮し，看護師の適格，冷静な対応により，安心して安全な検査・治療が受けられる様にすることが重要となる。今後増加する様々な患者のニーズに応える為，内視鏡医療チームとして外来とも連携し，検査説明や，前処置からの患者アプローチも考えてゆきたい。

5 結語

日々の業務に追われるだけではなく，新しい状況に対応しながら，看護師，内視鏡技師として専門的な知識技術を持ち，患者，家族が安心して検査治療を受けられるよう患者サイドに立った役割が重要である。また院内において，内視鏡に関する情報発信とともに，他部門との連携を強めていく事が必要となる。